



THE Y'S MEN'S CLUB OF TSU

TSU Y'S MEN'S CLUB 231-12 KOUMEI TSU MIE 514-0006
CHARTERED 1992 TEL 059-227-2392 FAX 059-227-2392



"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT!"

2016年1月

主題

国際会長 「信念のあるミッション（使命・目標）」
アジア地域会長 「愛をもって奉仕しよう」
西日本区理事 「あなたならできる！きっとできる」
中部部長 「踏み出そう 次の一步のための一步を」
クラブ会長 「ワイズで学び ワイズで奉仕」

会長 亀野 貞
副会長 千賀直道
書記 薦田正男
会計 佐脇康弘
直前会長 薦田正男

今月の聖句

「どうか、平和の主ご自身が、いつかまる場合にも、あなたがたに平和を与えて下さるように。」
テサロニケ人への第2の手紙 3章16節

1月特別例会案内

日時 1月9日(土) 10時～
会場 心豊苑
司会 千賀直道君

開会点鐘

ワイズソング斉唱

会長挨拶

会長

閉会点鐘

新年餅つき大会

心豊苑入所者のみなさんとマツテヤ子供の家の
子供たち みなさんが楽しみにしておられます
搗きたての餅をいただきます。



打出の小槌 金子みすず

打出の小槌貰うたら

私は何を出しましょう。

羊羹、カステラ、甘納豆

姉さんとおんなじ腕時計。

まだまだそれより真っ白な。

唄の上手なオウムをだして。

赤い帽子の小人をだして。

毎日踊りを見ましようか。

いいえ、それよりおはなしの。

一寸法師がしたように、

背丈を出していっぺんに

大人になれたらうれしいな。

| 在籍 | 第1例会 | 第2例会 | メイクアップ | 出席率 | ファンド |
|----|------|------|--------|-----|------|
| 4名 | 2名 | | | 50% | |

12月例会報告

あけましておめでとうございます

日時 12月10日(木) 19時～
会場 白子駅前 津弥や
四日市クラブとの合同クリスマス例会
セレモニーの後 祝会では加藤恵美子さんの
コカリナ演奏がありました
会場は元四日市のメンバーであった磯部さんのお店
でお値打ちに提供していただきました。
津からは千賀夫妻と薦田が参加しました。

幼稚園クリスマス会

日時 12月17日(木) 10時～
会場 地場産みえ 6Fホール
ページェントから始まり各年代の楽器演奏や歌を元
気よく発表していました。



12月18日より冬休みになりました。

西日本区連絡

半年報報告 残念ながら在籍4名
今期中に+2名を目標に努力しましょう

次期会長・主査研修会

日時 3月12日・13日
会場 チサンホテル新大阪
亀野会長・薦田地域奉仕・環境主査
2名参加予定

津クラブたより

日時 2月10日(水) 19時～
会場 アスト津3F 交流広場
EMCについて ゲストを招く
ちじん

津クラブ会長 亀野 貞

津クラブの新年は、新年餅つき大会でスタートします。
特別養護施設 心豊苑の入所者さん、スタッフの皆さん、
マッテヤ子供の家の子供達と一緒にさわやかな汗
をかきましょう。1月9日ですよ。

さて、一年の計は元旦にありといわれています。私事
ではありますが(年寄の自慢話)、中学1年の冬休みの
宿題に『年頭の所感』と題する宿題が課されました。
作文を書くにあたって、課題名が『今年の目標』なら
ば、勉学に励む、健康な体力を養成する、でOKと思
われましたが、『年頭の所感』の響きから、哲学的あ
るいは創造的な思考が求められていると受け取りま
した。考えれば考えるほど「アー、メンドクセー」と
思い、1日延ばしに放っばらかしていました。そして
始業式前日にでっち上げました。内容は、年頭の『年』
にこだわり、その年が1961年であったので、「1961は
逆さにしても1961で、このような年は二度とこない。」
とし、二度と来ない年を有意義に・・・といった、全く
抽象的無意味な作文だったと記憶しています。今思う
に、先生は具体的な今年の目標を求めていたのでは
しょう。ちなみに、先生は尾張柳生流宗家を背負う人物で、
こちらも構えて対峙しておりました。

2016年の目標は、今年こそ例会へ出席、行事の立案積
極参加です。抽象的で具体性に欠けますが大切な目標
です。

いざたて

- いざたて 心あつくし
手を挙げ 誓あらたに
われらのモットー守る
ふさわし その名ワイズメン
絶えせず めあて 望み
この身を 捧げ尽くさん
- 歌えば 心ひとつに
ともがき 広がり行きて
遠きも 近きも皆
捧げて立つや ワイズメン
栄と 誉れ豊か
まことは 胸にあふれん